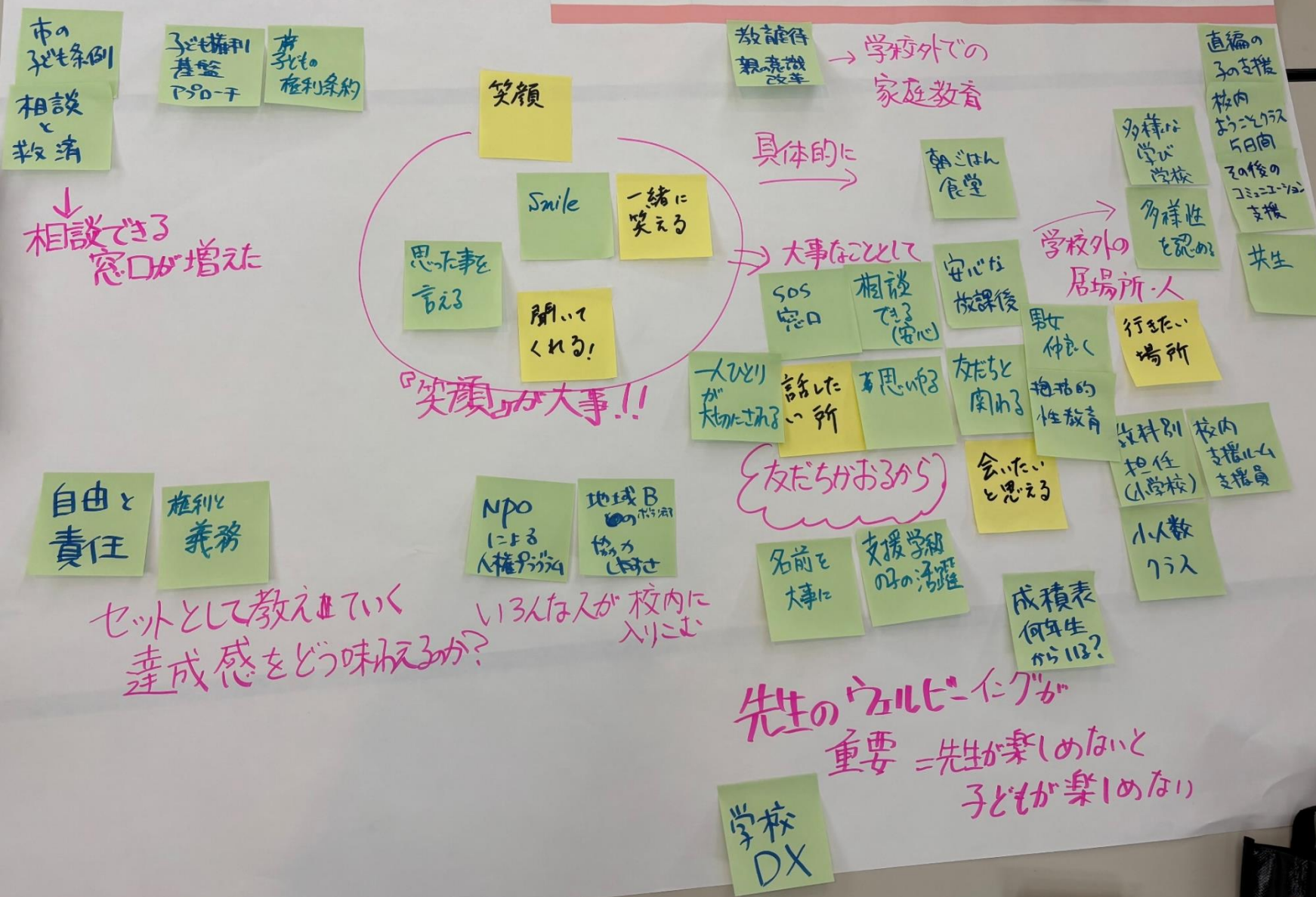


第2回ワーキング(全体会)

学校でめざしたい人権教育・生活の目標(姿)



グループ発表

「笑顔」が大事。一緒に笑えたり、思ったことを言える、それを聞いてくれるというのが大事だと感じました。そのためにやはり大事なこととして、相談できる場所がいっぱいある。安心な放課後、男女仲良く、友達とかかわる、話したいことがあるとか、一人ひとりが大切にされるということが必要かなと思います。そのための場所や仲間、……という話も出ました。

学校外の居場所として、多様性であったり共生であったり、認めることが必要だという話も出ました。

先生の働き方についてですが、子どもと一番よく関わる大人が先生なので、先生が楽しくなければ子どもも楽しくないですね。そのためには先生のいろんな仕事を変えていかなければならない。

先生だけではなく、やはり保護者であったり、地域や学校以外で教育虐待などもあるので、しっかり理解していく必要があるかな。それは学校だけでなく、周りの環境もしっかり勉強する必要があるのかな。やはりこどもの権利もしっかり学んでいく必要があるし。

自由と責任について。なんでも自由であればいいわけではなく、やはり責任というものをセットで考えていくことも必要。達成感をどう味わっていくのか。そこからいろんな人が学校に関わり持つことが大切だという話をしました。

グループ発表

学校で目指したい人権教育・啓発として

- ① 子どもにつけたい力
- ② 環境のこと
- ③ そこに関わる大人のこと
- ④ 誰もが安心して子どもたちが楽しく学校に行ける(これが一番大事)

と、4つの話ができました。

何でも言えるような集団であったり、自分の意見が言えるとか、楽しくしたり、学べるとか。勉強は難しいけども、何かやってみようとか、話を聞いてもらえとか、そんな関係を作ることが大事なんじゃないかなって、思います。

それは結局、続けていきたい学校、楽しく思えるとか、みんな元気とか、笑顔になったり、もちろん、そうなるためにはお互いの違いを認め合うことも大事。

子どもは権利の主体者なんですが、自分の権利を知らない子どもはまだまだいっぱいいる。子どもたちに権利のことを知っておいてもらう。自分でおかしいことはおかしいと思う、自分の権利が保障されていないと、つながるんじゃないかなって話になりました。

環境のことなんですが、ずっと話題になっている「ネット」のこととか、子どもが自由に「タブレット」を使ってできる環境に、大人はついていけない状況です。そんなところは少し学校を目指したい人権教育とは違うかもしれませんが、何か少し強制的な規制が必要なのではないかなと思います。

あとは過度な競争にならないように。競争することも大事だが、そこに過度な

競争になってくると、やはり違いを豊かさに捉えられないような体制や序列に繋がってくるんじゃないかと思います。

適切な競争であれば、集団として認め合ったり、仲間としての意識が芽生えることもあるので、そのへんは人権教育と結びつけると良いのではないかと思っています。

先生の職場環境を変えること。やはりしんどい先生もいる。それが子どもたちにかえてしまっている。先生が楽しいと思えることで、子どもたちも楽しい授業や人権教育ができるのですが、先生がしんどいと思ってしまうと、一番身近な子どもにかえてしまっている。それはよくないという話になりました。